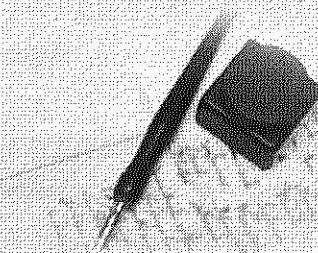


## 校長のひとり言



## 食中毒

「ムシムシ」、「ジメジメ」と聞けば「梅雨」を連想する。気温と湿度が上昇し、不快に感じる時期である。このような天候になると食中毒を引き起こす細菌が増殖する。そこで、食中毒予防のポイントは、原因菌を「付けない、増やさない、やっつける」となるそうだ。食中毒には、ノロウイルスなどのウイルス性、O157のような腸管出血性大腸菌、カンピロバクターといった細菌性、毒キノコやフグといった自然毒などがある。梅雨から夏にかけて（5月～8月）は、特に細菌性の食中毒に注意が必要のようだ。

## 【予防法】

## ○「付けない」

- ・手洗いは石鹸をよく泡立て、指の間、爪の先をしっかりと洗う。
- ・調理器具、食材にも付着している可能性があるため、しっかりと洗う。

## ○「増やさない」

- ・まな板、包丁は、肉や魚を調理したあと放置すると、すぐに菌が繁殖する。速やかに洗剤で洗う。
- ・調理した食材はすぐに食べ、保存するときは冷まして冷蔵庫に入れる。

## ○「やっつける」

- ・菌を「やっつける」ための切り札は加熱です。

## 大 雨

今時季は、梅雨前線が発生し大雨を降らせる。近年、台風も発生し、日本列島では甚大な被害が続いている。昨年は、県西部でも豪雨の影響で土砂崩れや河川の増水による道路などが浸食される大きな被害が起きた。

昭和58年7月20日～23日にかけて、県西部において梅雨前線が停滞して、前線の活動が活発となり記録的な局地的豪雨となった。典型的な梅雨末期の集中豪雨である。気象庁は「昭和58年7月豪雨」と命名した。豪雨による被害は、床上浸水や土石流による家屋の倒壊。洪水により田畑は壊滅状態となり、道路はがけ崩れ等により遮断された。残念だが、100名を越す死者・行方不明者がでる最悪な豪雨災害となった。

その時、私は県中学校総体陸上競技大会に参加する生徒を引率して、益田市駅前の旅館に宿泊していた。生徒たちには、大会前の逸る気持ちを抑え早めに就寝するよう話していた。

23日午前2時、打ち付ける雨音で目を覚ました。しばらくすると、1階で寝ていた生徒が、玄関まで浸水し始めたと呼びに来た。旅館の方々と玄関や玄関先の排水路を見ると、水の流れる量と音に驚いた。

午前4時前、避難命令が出され生徒を高台の公民館まで非難させることになった。生徒は荷物を背負い、両手が空いた状態にして全員が一行になるよう手をつないで（ヒューマンチェーン）誘導者についていった。道路を流れる水の高さは深いところで私の腹部あたりで、小柄な生徒は胸部まで浸かり、水流の強さにより押し流されそうになる恐怖から泣き出す生徒もいた。

約30分かかり公民館に到着し、全員の無事避難が確認でき一安心した。ずぶ濡れになり、悪臭もする体を、地域の方から貴重な水をいただきタオルで拭き流した。

やがて雨が止み晴れて蒸し暑さを感じ始めた。午後になりゴムボートにより運ばれてきた水と非常食（乾パン）をいただき、感謝の気持ちでいっぱいになった。これまでニュース等で見聞きしていたことが、自分の目の前で起きていることに改めて怖くなったことやお世話になった方からの優しさを感じたことを思い出す。

皆さんのご家庭では、日頃から防災について話す機会をもち、いざという時に備えておられますか。自宅周辺の河川や急な崖、避難場所など再度ご確認いただきたい。

